

(4) 総社市の取り組み

「だれもが行きたくなる学校づくり」の推進

総社市立総社西中学校

一 はじめに
本校は、生徒数七二八名、学級数二四学級の大規模校である。
総社市教育委員会が平成二二年度から行っている「だれもが行きたくなる学校づくり」により、本校でも平成二二年度から協同学習、平成二三年度からSEL（社会性と情動の学習）とピアサポート、そして今年度から品格教育を実践している。

二 取組の概要

(一) 協同学習
感情・役割・思考の交流、対人スキルの獲得、表現力・学力の向上をねらって協同学習に取り組んでいる。授業の導入・展開・終末のどこ



協同学習の様子

責任を与えることを全教員が共通理解して取り組んでいる。

協同学習の実践を通して、学習内容の理解が十分でない生徒や教科嫌いの生徒をサポートしていく姿勢が増えたり、グループ内での会話が増え仲間意識が強まったり、役割分担をすることで全員が責任を持って活動することができたりするなどの成果が見られた。

(二) SEL（社会性と情動の学習）

生徒が自分の感情を理解し自身でコントロールできること、またストレスに対処し問題解決ができることなどをねらって、すべての学級で上手な話し方・頼み方・断り方、感情の理解、怒りのコントロール、ストレスマネジメントなどの授業実践をしている。

(三) ピアサポート

生徒が自己肯定感や自己有用感を持つことができるよう、SELで身

かに最低五分間程度の協同学習を設定する。また協同学習を行う際には、生徒一人一人に役割、

に付けたスキルを使ってピアサポート活動を行っている。上級生が下級生に対して体育会の長縄跳びや合唱集会のパート練習のサポート、全校生徒が取り組む全校ピアサポート週間などを実施した。



リコーダーの指使いの支援

また、今年度初めて、二年生全員がそれぞれの出身小学校に向向いて小学生への学習支援ピアサポートを実施した。サポート活動は、六月と七月の二回行い、一回目のサポート活動を振り返り、各自が課題を明確にし、それを解決してより良いサポート活動に再チャレンジした。サポート内容は、小学校のニーズに応じて外国語活動、絵本の読み聞かせ、リコーダーの指使い、マット運動、

(四) 品格教育

品格教育は、学校という社会で人が人と関わるルールを学び、仲間と磨き合うことにより規範意識を向上

させるプログラムで、市内すべての小・中学校で月ごとの統一テーマを掲げて取り組んでいる。校長講話には必ず月テーマに関連した話題を取り入れて生徒に意識付けするとともに、生徒一人一人が月テーマをもとにした具体的な目標行動を定めて実践している。

三 生徒指導上の期待・成果

SELやピアサポート等の取組により生徒同士の良質なコミュニケーションが育まれていることが、協同学習をより効果的に実践するための土壌となっている。生徒は、協同学習に取り組むことで授業が楽しいと感じており、落ち着いた学習環境づくりに役立っている。

また、年間三十日以上長期欠席者数は、取組を始める前の平成二二年度と比較して、一年次は約一割、二年次は約三割減少しており、取組の成果が現れている。

四 おわりに

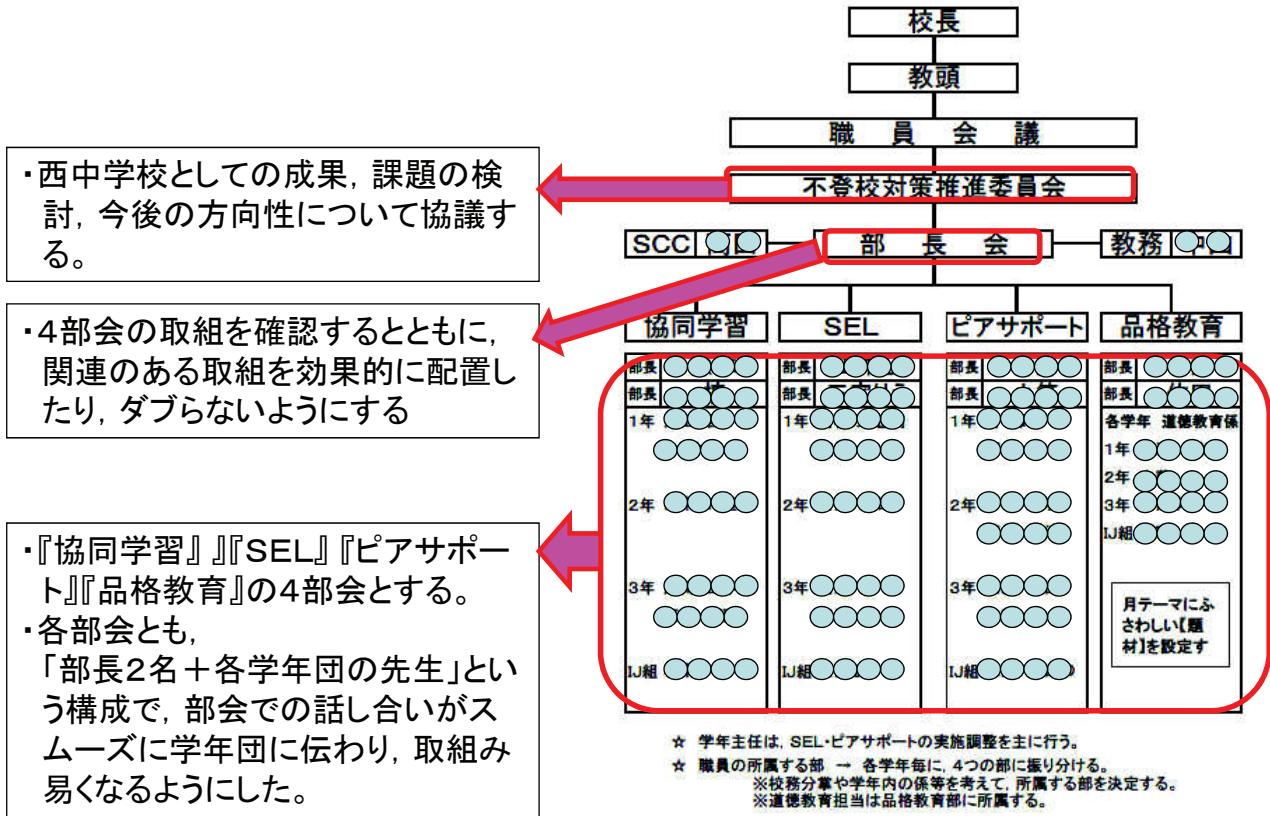
今後このプログラムを継続し、日々の教育活動に根付いたものとなるようにしていきたいと考えている。

(総社市立総社西中学校

校長 藤井和郎)

1 研究組織について(平成24年度)

不登校対策プロジェクト 校内研究組織



・西中学校としての成果, 課題の検討, 今後の方向性について協議する。

・4部会の取組を確認するとともに, 関連のある取組を効果的に配置したり, ダブらないようにする

・『協同学習』『SEL』『ピアサポート』『品格教育』の4部会とする。
・各部会とも, 「部長2名+各学年団の先生」という構成で, 部会での話し合いがスムーズに学年団に伝わり, 取組み易くなるようにした。

2 各部会の取組について

(1) 協同学習部

教科会で, 各教科でどのように取り組めるかを話し合い, 可能な限り各時間の指導に協同学習を組み込むことにしている。また, 他教科の『取り入れるための工夫』を参考にし, より効果的な協同学習を目指した。

(1) 重点項目

- ① 授業公開を中心とした研修を行い, 各教科・道徳の授業の特性や, 指導領域を考慮した「適切な協同学習の形態・内容」を工夫する。
- ② 協同学習の部分の指導・評価の観点を精選, 具体化して示す。

(2) 実践内容

- ① 6回の授業研修を行った。国語(1年), 社会(1、2、3年), 数学(2年), 音楽(1年)
- ② 「学習の約束」を教室掲示する。
・協同学習のスキル面での具体的な目標(=評価の観点)をふまえて, 指導者の授業中での即時性の評価(声かけなど)や生徒の自己評価シートに生かす。

協同学習のスキル

聴く	伝える	まとめる
・顔をみて	・1回以上発言	・声をかける
・うなずいて	・言葉で	・相手の気持ちを繰り返す
・説明を求める	・表情で	・方向性を示す

〈合い言葉〉
「一コマ5分,
一日30分」
「コミュニケーション
の量を確保」
「個々の役割を
明確に」

(2) SEL部

ピアサポートワークブックを基に各学年で内容を決定し、総合的な学習の時間、学活、道徳の時間を使って実施した。

(1) 実施内容

- ① 各学年10時間の題材を決め、道徳、学活、総合的な学習の時間の年間指導計画を基に指導する時間を割り振った。
- ② 学年会議で、SEL部員を中心に指導方法を検討し、担任が授業を行った。
- ③ 授業だけでは定着しにくいので、日々の生活の中で教師が意図的に学習内容に触れて実践力が高まるようにした。

平成24年度 SEL実施内容

1年生	2年生	3年生
①どんな気持ちになるかを考えよう	①人間関係づくり	①ジェスチャーゲーム(仲間との交流)
②聞き上手になろう(FELORの法則)	②チャレンジワークに向けて	②私の四面鏡(自分を知る)
③気持ちの読み取り	③上手な教え方(小学校訪問に向けて)	③私のかかわり方(人間関係の特長)
④DESC法で伝えよう	④自分を知ろう	④エゴグラム(自分探し)
⑤頼む・謝る・断る	⑤ストレスとうまくつきあう	⑤体育会に向けて(ピアサポートのやり方)
⑥心の温度計	⑥いろいろな考え方	⑥合唱集会に向けて(ピアサポートのやり方)
⑦アサーティブ チェック	⑦こころのつぶやき	⑦ストレスマネジメント
⑧アサーティブ ロールプレイ	⑧あたたかい言葉かけをしよう	⑧受験期の悩みの解消(ストレスマネジメント)
⑨聞く と 聴く	⑨問題の解決	⑨面接に向けて(グループ練習)
⑩ブレンストレーミング	⑩10秒呼吸法	⑩グループワーク

(3) ピアサポート部

SELで身につけたスキルを使ってピアサポート活動を行い、人間関係形成能力や自己表現能力等を育む。
～ピアサポート活動を通して自己肯定感や自己有用感が持てるようにする～

(1) ピアサポートを実施するときの約束

- ◎ サポートを実施する前にトレーニングを行い、実施後にスーパービジョン(振り返り)を行う。
- ◎ SELでの指導内容が実践の場で発揮されるように意識的に声かけを行う。

(2) ピアサポートの事例

1) 学習支援ピアサポート(1学期に2回出身小学校へ出かけて学習支援をする)

- ねらい サポート活動を通じて人間関係形成能力や自己表現能力等を育てる。
- ピアサポーター 2年生全員

2) 体育会(1年生の長縄へのサポート)

- ねらい 全校種目の「長縄」のピアサポートを通して体育会に対する意欲を高め、全校生徒で体育会を盛り上げる。
- ピアサポーター 3年生の体育委員と生徒会執行部生徒

3) 合唱集会…パートリーダーを中心としたサポート

- ねらい 全校合唱「大地讃頌」を通じて西中全体の歌声を高める
- ピアサポーター 3年生合唱集会パートリーダー、生徒会執行部生徒

4)ピアサポート月間の取り組みについて

○ねらい 生徒相互のピアサポート活動を通して、仲間・環境等を大切にし、「休まず登校したくなる学校」をつくる。

○「ピアサポート週間 2月の生徒集会から1週間

○ピアサポーター 生徒全員

5)総高生ワイド相談(3年生対象)

○ねらい 高校生に高校生活について話を聞いたり、入試前にやっておくことをアドバイスしてもらうことにより、自分の生活を振り返り今後の生活に役立てる。

○ピアサポーター 総社高校生(ピアサポート訓練を受けた生徒 21名)

6)中学生と語る会

○ねらい 中学校の生活について紹介し、小学生の中学校に対する不安を取り除き期待を持って入学してもらう。

○ピアサポーター 3年生(希望者)

7)保健委員会による取り組み

○活動内容 ・保健委員のストレス度を各自でチェックし、ストレスはいつも同じでないことに気づかせた。

・事前に、1~3年生の保健委員の生徒に「10秒呼吸法」について説明し、トレーニングを行う。

・3学期から、朝読書の終わり5分程度を使い、放送を使って全校「10秒呼吸法」を行う。

8)その他の活動

見通しを持って、意欲的に学校行事に望めるよう先輩からメッセージを届けた。

3年生から1・2年生に、2年生から1年生にメッセージを届けた。

(宿泊研修前・1学期中間テスト前・期末テスト前・体育会前・卒業にあたってなど

(4) 品格教育部

学校が主体となって生徒の品格を高める。また生徒だけでなく保護者の理解も得ながら規範意識を育てていく。

(1) 月ごとにテーマ(総社市共通)の啓発をする。

- ・全校集会で校長先生の話
- ・生徒全員に毎月の月はじめにポスターを配布
- ・全クラスにポスターを掲示
- ・校門や校内の掲示版にポスターを掲示
- ・地域にポスターを掲示
- ・学年通信や学級通信など各種通信で啓発。
- ・生徒会委員会の月目標と品格教育の月目標のリンク

(2) 具体的な取組

- ・品格教育の月目標に合わせた道徳副読本の活用
- ・品格教育の月目標に合わせた目標を心のノートに書き、次の月に反省をする。
- ・朝読書で心のメッセージを読み、感想を書いた後、心のノートへ貼っていく。
- ・月はじめに月テーマの個人目標をプランニング
- ・月の終わりにそれについてふりかえり
- ・廊下に掲示し、月の個人目標を意識づけ

